

学びに向かう学級づくり部会

1 研究テーマ

安心できる学級づくりを目指した実践研究

- ・ 良好な人間関係を構築するための指導法の工夫
- ・ 児童生徒同士が互いに高め合える自治的な集団を目指す学級活動の工夫



2 研究の取組

(1) 児童生徒や教師の考える☆「安心できる学級」の条件調査

【調査結果】 教師…学級を集団として捉えている。「意見が言える」「規律がある」
児童生徒…自分とのかかわりとして捉えている。「仲がよい」「楽しい」

教師と児童生徒の「安心」に対する捉えが異なるため、双方の目標を共有することが必要である。

(2) 「附属新潟式学級力」による学級の実態把握

今の学級の状態をどう感じているか児童に☆アンケート調査を行い、その結果を☆チャート図に表した。本部会では、さらに児童が学級のよさや課題を自分事としてとらえられるよう、付箋を活用して可視化できるよう試みた。

(3) よりよい学級集団を目指す取組

① 学級活動(1)の実践



☆小4の実践「12月のクラス
のめあてをたてよう」

☆中3の実践「受験に向けて、ク
ラスの雰囲気をよりよくしよう」



話し合い活動の充実を目指し、小中一貫を意識した☆学級会マニュアル等（「学級活動計画ノート」「学級会の進め方マニュアル」「話し合いのルール」「学級会ノート」）を作成し実践した。

② 学校行事を通じた人間関係作り

ア 行事の後に自分の頑張りを振り返ったり、共に頑張った仲間とメッセージ交換をしたりする。

（中学校の実践：☆「キラリ発見！カード」 小学校の実践：☆「ココロコーナー」）

イ 行事によっては、学級や学年を超えてのメッセージ交換（写真）も行う。

③ 学級への帰属意識を高める教室環境作り

ア ☆誕生日カード（月ごと）の作成・掲示

イ 活動の様子が分かる☆写真を活用した掲示物

ウ 授業等で活躍した（頑張った）☆児童を賞賛する掲示物



3 成果（○）と課題（△）

- 定期的に附属新潟式学級力によるアンケートを行うことで、学級のよさや課題が捉えやすくなり、日常生活から、自分たちで学級をよりよくしていこうとする雰囲気がつくられた。
- 学級活動(1)の実践では、学級の実態をチャート図や付箋等で示したことで、少数意見を大切に話し合い活動を行うことができ、自治的な集団を作っていこうとする姿が見られた。
- 自己有用感を高めることを目指して行事を通じた人間関係作りを行うことで、仲間や学級のよさに気付くことができた。
- △ 話し合い活動は積み重ねが大切であり、学級活動(1)を小中一貫で進める必要性を感じた。